

<水球陣>東日本リーグ第4戦

H25.3.16 対蹊泳会 @慶應大学日吉プール

東大 0 3 2 2 計7

蹊泳会 1 1 4 0 計6

得点者三宅さん(2)、堀江さん(1)、下東さん(1)、横山さん(2)、大脇(1)

一部残留はこの試合ですべて決まるという最重要な一戦。エース浪間を胃腸炎で欠き、ベンチも二人しかいないというギリギリの状況での戦いとなったが、一同気合の漲る試合前であった。

第1ピリオド

開始後すぐは攻防が続くが、その中で東大は退水をとられ、一人少ない状況下で相手に得点を許す。しかし自分たちの攻撃のペースを保ちセットでの攻撃を意識してオフENSESを続けた結果、失点を抑えることに成功し、このピリオド1点ビハインドで終える。

第2ピリオド

1ピリ目の流れをしっかりと引継ぎたい東大はこのピリオドも自分たちのペースを守る。相手もセットでのオフENSESをメインに組み立ててきたこともあり、終始東大のペースでゲームを進めることができ、ピリオド中盤には攻防の中で連続得点を決め相手をリードする。

第3ピリオド

リードして迎えたこのピリオド。毎回このピリオドが試合の流れを決定づけてきた。前半の良い流れを保ちたい東大であったが、徐々に疲れが見え始めミスが目立ちだす。その中で失点を重ね、今までの試合が頭をよぎったが、この試合にかける気持ちの熱さでなんとか食らいつく。気合いのディフェンスで多くのピンチを切り抜け、一点差でピリオド終了。負けていることで一同気合を入れなおす。

第4ピリオド

一点ビハインドでスタートしたこのピリオド、序盤は両者全く点が入らない状況が続く。お互い疲労のたまってきたこの時間帯、最初に抜け出したのは東大だった。相手のカウンターからの左サイド、キーパーとの1対0。そのシュートを正田が止め全員総攻撃に入る。その中で三宅さんがミドルシュートを放ち見事にキーパーを抜去り同点に持ち込む。会場がわき上がる中、さらに攻防が続き再び三宅さんのミドルシュートが決まりついに勝ち越しを

決めた東大は最後の力を絞りだして30mのコートを往復する。相手も死ぬ気で攻めてくる中、相手の最後の攻撃中に退水。最大のピンチを迎える。互いに最後の山場となったこの時間、相手のシュートを飯塚さんが華麗にカットしてマイボールに。こうして東日本リーグ最大の熱戦は終わった。

大プールでの試合では今まで後半の息切れが目立っていたが、今回は苦しいところで戦い抜くことができたことが勝利につながった。この試合に勝利したことで一部残留が決定し、当初の目標を達成することができたが、最後もう一戦を抜かずに戦っていきたい。最後になりましたが、試合に出てくださった飯塚さん、堀江さん、三宅さん、有吉さん、下東さん、只野さん、横山さん、監督をしてくださった井出さん、応援にきてくださった轟さん、本当にありがとうございました。

(文責 疋田弘之)